

大丈夫。
未来をもっと
よくするから。

私たちは、マテリアルで
社会に貢献するNAGASEです。

2026年度 第1四半期 決算説明資料

長瀬産業株式会社（証券コード:8012）
2026年8月4日 公表



（取締役 清水義久によるプレゼンテーション）

長瀬産業株式会社 取締役の清水でございます。

決算説明に先立ちまして、一言ですけれども、このたびの熊本地震でお亡くなりになられた方々に謹んでお悔やみ申し上げます。また被災された皆様には心よりお見舞い申し上げますとともに、1日も早い復旧、復興をお祈り申し上げます。

2026年度第1四半期の決算につきまして、説明させていただきます。

エグゼクティブサマリー

2026年度 第1四半期決算

- ▲ 売上高および各段階利益において過去最高を更新。
- ▲ マテリアルセグメントは、中東情勢の影響による市況高騰により、業績が好調に推移。
- ▲ エレクトロニクスセグメントは、ナガセケムテックスが製造する変性エポキシ樹脂の販売は、AI半導体向けが好調に推移。
- ▲ ライフサイエンスセグメントは、PrinovaグループのSolutions事業、Nutrition事業がともに好調に推移。
- ▲ 売上総利益率が1.0ppt改善、営業利益率が1.8ppt改善。

2026年度 通期見通し

- ▲ AI半導体向け変性エポキシ樹脂販売が想定以上に好調に推移。
- ▲ Prinovaグループの製造業において、Solutions事業の販売が想定以上に好調に推移。
- 中東情勢の影響のため、今後の市場動向および需要等を精査した上で、第2四半期決算公表時に改めて通期業績見通しを更新予定。

中東情勢の影響

- ホルムズ海峡の封鎖を受けて、ナフサ不足が発生。現時点では、米国からの供給等により需給は落ち着いている。
- ナフサ価格のピークは4月となり下落傾向にあったものの、足元は再び上昇傾向。
- 顧客の有事に備えた需要の増加や代替品の調達、および商品価格の高騰により、第1四半期の業績は好調に推移。
- 当社の強みであるグローバルネットワークを生かし、代替品の調達をいち早く実施し、化学品のサプライチェーンの維持に貢献。
- 今後の価格の下落に備えて、在庫数量のコントロールを実施。

まずエグゼクティブサマリーをご覧ください。青い矢印は、想定を上回る状況であったことを示しております。この第1四半期におきまして、売上高、および各段階利益におきまして、過去最高を更新しております。マテリアルセグメントにおきましては中東情勢の影響による市況高騰、および代替品の調達により好調でした。エレクトロニクスセグメントにおきましては、ナガセケムテックスが製造するAI半導体向け変性エポキシ樹脂の販売が好調でした。ライフサイエンスセグメントにおきましては、PrinovaグループのSolutions事業、Nutrition事業といった製造業が好調でした。

売上総利益率が1.0ppt改善し、営業利益率も1.8ppt改善しております。これらは単に価格上昇によるものだけではなく、当社が持つグローバルネットワークがあったからこそ実現できたものだと考えております。

続きまして、通期の見通しでございます。エレクトロニクスセグメントにおけるAI半導体向けの変性エポキシ樹脂の販売は、当初の想定以上に推移すると予測しております。またライフサイエンスセグメントにおきましては、Prinovaグループの製造業において、特にSolutions事業が期初の想定以上に好調に推移すると予測しております。

こういった力強い背景はありますが、マテリアルセグメントでは中東情勢の影響により、今後の市場動向、および需要などを精査する必要があります。その上で、第2四半期決算公表時に改めて通期業績見通しを更新させていただきます。

次にその下段、中東情勢の影響につきましてご報告させていただきます。ホルムズ海峡の閉鎖を受けてナフサ不足が発生し、ご存じのとおりいろいろな石油化学製品がタイトになり、価格が高騰しました。国産ナフサ価格は昨年度6万円程度であったものが、4月のピーク時には12万円になり、7月にかけて値下がりのものの、まだ足元ではいまだに安定しておりません。

また顧客の有事に備えた需要の増加、これは先取り需要とも言えますが、代替品の調達、および商品価格の高騰といったものにより、第1四半期の業績は非常に好調な結果となりました。これは当社が急激な外部環境の変化に柔軟に対応し、サプライチェーンを維持する力を持っていることによるものです。

しかしながら、価格はこの先下がってくると予想しております。ただその時期、および下げ幅に関しましては見通しが非常に難しいものとなっております。もちろんこういった価格下落のリスクに備えまして、在庫数量のコントロールは徹底するように既に指示しております。

目次

連結損益計算書	P4
セグメント別営業利益 2期比較	P5
セグメント概況	P6～P8
連結貸借対照表	P9
連結キャッシュ・フロー計算書	P10
2026年度 通期業績見通し	P11～P13
株主還元状況	P14

<参考情報>

NAGASEの各セグメントを取り巻く事業環境	P17	※ 当期より、Prinovaグループの売上総利益と営業利益を「製造業」「商社業」に区分開示しております。前期では未開示だった実績についても、新区分に基づき組み替えて掲載しております。
所在地別 売上総利益	P18	
業態・セグメント別売上総利益 2期比較	P19	※ 当期より、セグメント業績管理の適正化に伴い、全社共通費用の配賦方法を変更しました。これに伴い前期比較を可能とするため、前期実績につきましても新基準に基づき組み替えて表示しております。
業態・セグメント別営業利益 2期比較	P20	※ 製造は製造子会社の合計値となります。
売上高・売上総利益・営業利益 四半期推移	P21	※ 商社は長瀬産業および販売子会社の合計値に加え、その他・全社、連結調整を含めております。
セグメント概況	P22～P24	
主要製造子会社概況	P25～P27	

連結損益計算書

- ▶ 第1四半期において、売上高および各段階利益において過去最高を更新。
- ▶ 売上総利益は事業拡大に加え、中東情勢影響によるサプライチェーン混乱の中で顧客要求への対応を確実に実施したことにより増益。
- ▶ 営業利益は増益。数理差異の償却にかかる退職給付費用減少も影響。

	2025年度 1Q累計	2026年度 1Q累計	増減額	前期比	通期見通し	(億円) 進捗率
売上高	2,373	2,797	424	118%	10,000	28%
売上総利益	443	551	108	124%	1,980	28%
<利益率>	18.7%	19.7%	1.0ppt	—	19.8%	—
販売費及び 一般管理費	340	381	40	112%	1,530	25%
営業利益	102	170	67	166%	450	38%
<利益率>	4.3%	6.1%	1.8ppt	—	4.5%	—
(数理差異の償却による 退職給付費用影響除く)	103	159	56	155%	409	39%
経常利益	106	180	73	169%	450	40%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	75	146	71	195%	345	42%
US\$レート (期中平均)	@ 144.6	@ 159.5	@ 14.9 円安		@ 155.0	
RMBレート (期中平均)	@ 20.0	@ 23.4	@ 3.4 円安		@ 22.5	

※ 為替の影響 【売上総利益】+25億円 【営業利益】+9億円

連結損益計算書です。

売上高2,797億円で、前年比118%。売上総利益551億円で、前年比124%。売上総利益率が19.7%と、前年に比べて1pptの改善となっております。営業利益170億円で、前年比166%。営業利益率も6.1%と、前年に比べて1.8pptの改善となっております。四半期純利益は146億円で、前年比195%となっております。

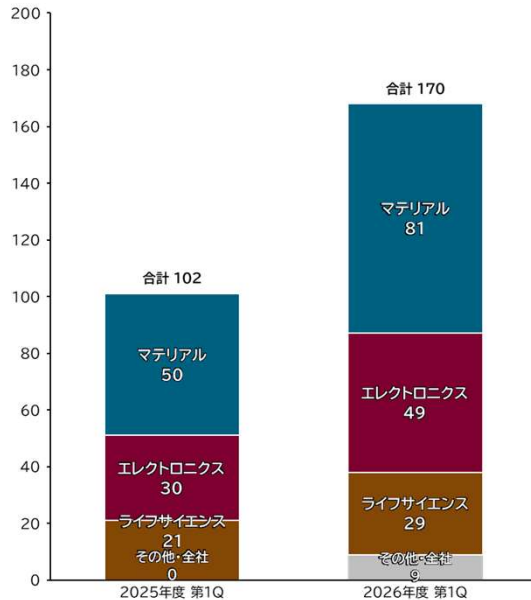
売上総利益の増加に比べて販管費をコントロールできていることによって、営業利益が大きく増加しております。特に海外の人件費、これは円安もあり、かなり増加しておりますが、全体としては想定の範囲内で進捗しております。下期には当社の本社移転費用等、増加する要因はありますが、引き続きこの一般管理費および販売費につきましてはコントロールしていきます。

為替の影響ですが、USドルが159.5円と前年に比べて14.9円の円安。人民元が23.4円と前年に比べて3.4円の円安でした。その結果、売上総利益の段階で25億円、営業利益の段階で9億円のプラスの効果があります。

セグメント別営業利益 2期比較

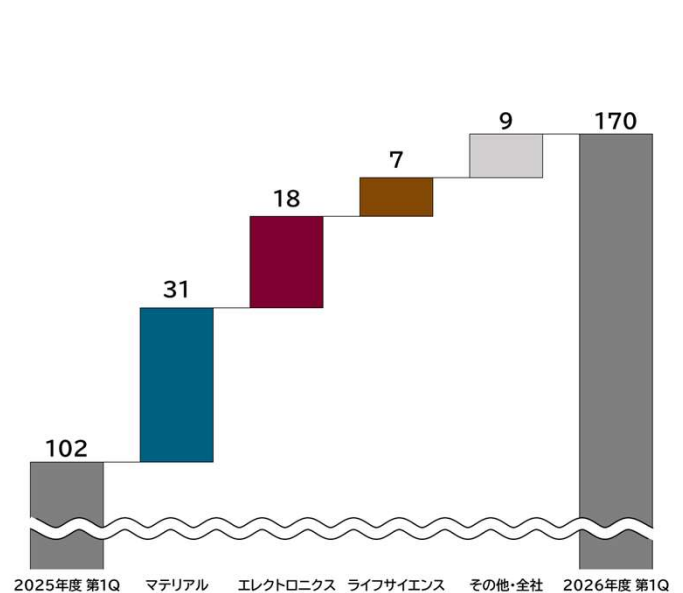
- ▶ 全セグメントで前期比増益
- ▶ その他・全社は前期比9億円の増加。数理差異の償却にかかる退職給付費用減少による。
(数理差異の償却にかかる退職給付費用:2025年度通期 約3億円(損)、2026年度通期 約40億円(益) 四半期毎に均等按分し計上)

セグメント別 営業利益(億円)



※ 当期より新配賦基準を採用しております。詳細は目次ページをご確認ください。

セグメント別 営業利益 増減(億円)



セグメント別営業利益の2期比較をご覧ください。

今年度より新中計に合わせまして、従来の五つのセグメントを三つのセグメントに変更しております。

右のウォーターフォールを見ていただきますと、全てのセグメントで増益になっていることが分かっていただけたと思います。この中でマテリアルセグメント31億円の増益のうち、約20億円強が中東情勢の影響による代替品の調達、あるいは値上げによるものとご理解いただければと思います。一方でエレクトロニクスセグメント、およびライフサイエンスセグメントにつきましては、中東情勢の影響を直接的にはそれほど受けておりません。

セグメント概況 マテリアル

▶ 売上総利益は前期比47億円の増益。営業利益は前期比31億円の増益。

<製造業>

・ ナガセルータックは工業用ホース・土木用パイプの販売が増加。

<商社業>

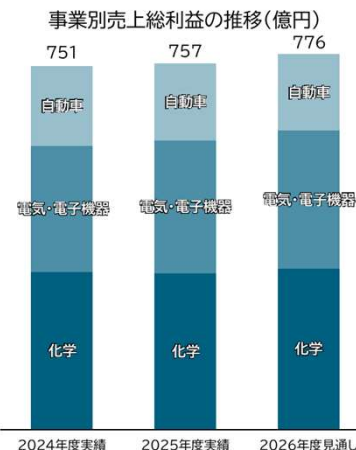
・ 全体として、中東情勢の影響により、市況が上昇局面にあり利益率が改善。

・ 化学事業においては、代替品の調達によりサプライチェーンの維持に貢献。

・ 電気・電子機器向け樹脂の販売数量は前期並み。従前から取り組んできたプロダクトミックスの改善が寄与。

・ 自動車向け樹脂および機能素材・部品の販売は、新規採用等もあり堅調。

	2025年度 1Q累計	2026年度 1Q累計	増減額	増減率	(億円)	
					通期見通し	進捗率
売上高	1,189	1,403	214	18%	4,955	28%
売上総利益	181	228	47	26%	776	29%
<利益率>	15.2%	16.3%	1.1ppt	-	15.7%	-
営業利益	50	81	31	63%	196	42%
<利益率>	4.2%	5.8%	1.6ppt	-	4.0%	-
製造	5	9	3	71%		
商社	44	72	28	63%		



※ 営業機能を長瀬産業および販売子会社が担っている製造子会社があり、商社業においても製造子会社製品の販売による利益が計上されています。
※ 当期より新配賦基準を採用しております。詳細は目次ページをご確認ください。

セグメントごとの概況です。

まず、マテリアルセグメントです。

売上総利益は前期比47億円の増益、営業利益は前期比31億円の増益となっております。マテリアルセグメントは商社業が中心のため、全体としては中東情勢の影響により市況が上昇局面にありました。それによって、利益率が改善しております。ただご理解いただきたいのは、単に価格の上昇だけで利益が改善したわけではなく、この有事において当社のサプライチェーンを維持できる実力があってこそ、利益改善だと考えています。お客様の要望に応じて代替品を探すことができていたのも、平時から各エリアでのサプライヤーの方々との関係を維持しているからです。それが顕著に出ているのが、このマテリアルセグメントと言えます。

特に化学業界におきましては、代替品の調達によるサプライチェーンの維持に貢献することが、そのまま利益につながっております。代替品、これは一言でいってもなかなか難しいものではありますが、代替品を探して提供することは、ほぼ新規ビジネスの獲得につながっております。

一方、電気・電子機器業界におきましては、ここは樹脂の販売が主になりますが、販売数量自体は前期並みでした。ただ価格の上昇に加えまして、従前から取り組んでおりますプロダクトミックスの改善が寄与しております。

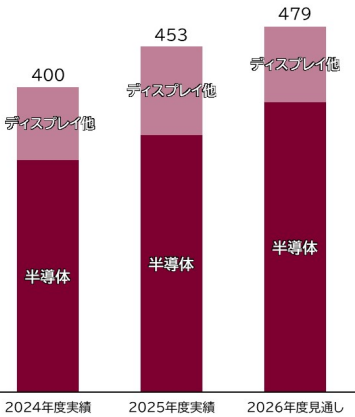
自動車業界向けにおきましては、樹脂、および機能素材、あるいは機能部品の販売があります。これが去年は非常に伸び悩んだところもありますが、新規採用も含めて堅調です。

セグメント概況 エレクトロニクス

- ▶ 売上総利益は前期比24億円の増益。営業利益は前期比18億円の増益。
- <製造業>
- ・ ナガセケムテックスの変性エポキシ樹脂の販売は増加。モバイル機器向けが低調に推移した一方、AI半導体向けを好調に推移させたことによる。
 - ・ Pac Techグループは好調に推移。バンピング受託サービス好調による。
- <商社業>
- ・ グレーターチャイナにおける半導体材料の販売が増加。

	2025年度 1Q累計	2026年度 1Q累計	増減額	増減率	(億円)	
					通期見通し	進捗率
売上高	415	491	76	18%	1,750	28%
売上総利益	103	127	24	23%	479	27%
<利益率>	24.8%	25.9%	1.0ppt	—	27.4%	—
営業利益	30	49	18	60%	144	34%
<利益率>	7.4%	10.0%	2.6ppt	—	8.2%	—
製造	9	17	7	79%		
商社	21	32	10	52%		

事業別売上総利益の推移(億円)



※ 営業機能を長瀬産業および販売子会社が担っている製造子会社があり、商社業においても製造子会社製品の販売による利益が計上されています。
※ 当期より新配賦基準を採用しております。詳細は目次ページをご確認ください。

エレクトロニクスセグメントです。

売上総利益は前期比24億円の増益、営業利益は前期比18億円の増益となっております。

製造業におきましては、ナガセケムテックスの変性エポキシ樹脂の販売が、モバイル機器向けにつきましては昨年度に引き続き低調であった一方で、AI半導体向けが好調でした。既にご存じの方も多いと思いますが、好調をけん引しているのは生成AI半導体向けの液状封止材、LMCでございます。前年比で2桁の成長を記録しております。

さらにa-SMCという次世代のシート状封止材ですが、既に先端半導体向け高機能ICパッケージ基板用封止材への採用が決まっております、まだ今年度少量ではありますが、既に量産を開始しております。またPac Techグループは、アジアにおけるバンピングの受託サービスが好調でした。

一方でこのエレクトロニクスセグメントにおける商社業ですけれども、グレーターチャイナにおける半導体材料の販売が昨年度に引き続き、好調を維持しております。

セグメント概況 ライフサイエンス

▶ 売上総利益は前期比37億円の増益。営業利益は前期比7億円の増益。

<製造業>

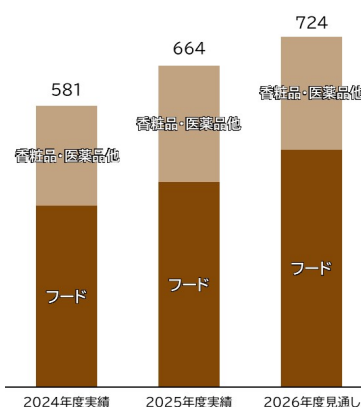
- ・ Prinovaグループの製造業はSolutions事業、Nutrition事業の販売増加により好調。
- ・ ナガセヴィータは、原材料の価格上昇を香粧品素材の販売増加等でカバーし前期並みを維持。

<商社業>

- ・ Prinovaグループの商社業は販売が増加したものの、物流コスト等の販管費の増加に伴い減益。
- ・ 中間体・医薬品原料の販売は前期並み。

	2025年度 1Q累計	2026年度 1Q累計	増減額	増減率	(億円)	
					通期見通し	進捗率
売上高	768	902	133	17%	3,294	27%
売上総利益	157	195	37	24%	724	27%
<利益率>	20.5%	21.6%	1.1ppt	—	22.0%	—
営業利益	21	29	7	37%	72	40%
<利益率>	2.8%	3.2%	0.5ppt	—	2.2%	—
製造	6	20	13	206%		
商社	14	8	△ 5	△ 40%		

事業別売上総利益の推移(億円)



※ 営業機能を長瀬産業および販売子会社が担っている製造子会社があり、商社業においても製造子会社製品の販売による利益が計上されています。
 ※ 当期より新配賦基準を採用しております。詳細は目次ページをご確認ください。
 ※ 当期よりPrinovaグループの売上総利益と営業利益を「製造業」「商社業」に区分開示しております。詳細は目次ページをご確認ください。

ライフサイエンスセグメントです。

売上総利益は前期比37億円の増益、営業利益は前期比7億円の増益となっております。今期より、Prinovaグループの数字を製造業と商社業に分けて記載しております。

まず製造業ですが、PrinovaグループはSolutions事業、Nutrition事業の両方の販売増加により好調でした。ナガセヴィータは円安などによる原材料の価格上昇はありましたが、香粧品素材の販売増でカバーし、前年並みを維持しております。

商社業に関しましては、Prinovaグループの販売自体は増加しておりますが、中東情勢による物流コストの増加など販管費の増加に伴い、減益となっております。

このライフサイエンスセグメントにおいて、特に商社業で一般管理費が増加している要因としては、サンディエゴでのAI・ロボティクスを活用したラボの費用、およびグループ、グローバルでの中間体や医薬品原料を取り扱うための、法規制に関する組織の見直しといったものを行っていることによるものです。

連結貸借対照表

- ▶ 流動資産は増加。現金及び預金が減少した一方、事業拡大に伴う売掛債権と棚卸資産の増加による。
- ▶ 固定資産は増加。投資有価証券の時価上昇等による。
- ▶ 負債は増加。買掛債務およびコマーシャル・ペーパーの増加等による。
- ▶ 純資産は増加。親会社株主に帰属する四半期純利益の計上、その他有価証券評価差額金および為替換算調整勘定の増加等による。

	2026年3月末	2026年6月末	増減額	主な増減
流動資産	5,663	6,161	498	
（現金及び預金）	455	410	△45	
（売掛債権）	3,214	3,541	326	
（棚卸資産）	1,775	1,953	177	
固定資産	3,052	3,259	207	
（投資有価証券）	875	996	120	
資産の部合計	8,715	9,421	705	
流動負債	2,970	3,415	445	コマーシャル・ペーパー+210
（買掛債務）	1,598	1,753	155	
固定負債	1,404	1,444	39	
負債の部合計	4,375	4,860	485	
株主資本	3,138	3,228	90	
その他の包括利益累計額	1,115	1,239	124	その他有価証券評価差額金+78、為替換算調整勘定+54
非支配株主持分	85	91	6	
純資産の部合計	4,340	4,560	220	
運転資本	3,391	3,740	349	
自己資本比率	48.8%	47.4%	△1.4ppt	
有利子負債	1,910	2,163	253	
NET D/Eレシオ	0.34	0.39	0.05	

連結貸借対照表です。

総資産が3月末に比べて705億円増加しておりますが、主な要因は事業拡大による売掛債権、および在庫の増加によるものと、投資有価証券の時価上昇によるものです。

現預金は引き続き、効率性を高めることで減少させております。売上高の増加により運転資金が349億円増加しており、そのファイナンスとしましてコマーシャル・ペーパーの発行210億円に対応しております。こういったことにより、自己資本比率は47.4%、NET D/Eレシオ0.39倍となっておりますが、財務基盤に影響を与えるような状況ではございません。

第1四半期は政策保有株式の売却は行っておりませんが、第2四半期以降、売却を進めていきます。

連結キャッシュ・フロー計算書

- ▶ 営業CFは212億円のキャッシュアウト。主な要因は運転資本の増加による資金の減少306億円による。
- ▶ 投資CFは41億円のキャッシュアウト。主な要因は有形固定資産の取得による支出34億円による。
- ▶ 上記の結果、フリーCFは253億円のキャッシュアウト。
- ▶ 財務CFは181億円のキャッシュイン。主な要因はコマーシャル・ペーパーの増加210億円による。
- ▶ これらの結果、現金及び現金同等物は53億円減少。

	(億円)	
	2025年度 1Q累計	2026年度 1Q累計
営業活動によるキャッシュ・フロー	7	△212
（税金等調整前四半期純利益）	105	181
（有形・無形資産償却費）	43	53
（運転資本の増減）	△36	△306
（その他）	△104	△141
投資活動によるキャッシュ・フロー	△189	△41
（固定資産投資）	△194	△46
（その他）	5	5
フリーキャッシュ・フロー	△182	△253
財務活動によるキャッシュ・フロー	61	181
（自己株式取得による支出）	△46	0
（配当金の支払い額）	△48	△56
（借入金・社債の増減）	163	244
（その他）	△6	△6
換算差額	△43	19
現金及び現金同等物の増減額	△164	△53

連結キャッシュ・フロー計算書です。

営業キャッシュ・フローは212億円の減少となっておりますが、主な要因につきましては運転資本の増加によるものです。これにより、フリーキャッシュ・フローは253億円の減少となっており、これを財務活動の借入金増加、コマーシャル・ペーパーの発行で補っている構造になっております。

2026年度 通期業績見通し(変更なし)

(億円)

	2025年度 実績	2026年度 見通し	増減額	前期比
売上高	9,727	10,000	272	103%
売上総利益	1,876	1,980	103	105%
<利益率>	19.3%	19.8%	0.5ppt	—
販売費及び 一般管理費	1,429	1,530	100	107%
営業利益	447	450	2	101%
<利益率>	4.6%	4.5%	△0.1ppt	—
(数理差異の償却による 退職給付費用影響除く)	450	409	△41	91%
経常利益	440	450	9	102%
親会社株主に帰属 する当期純利益	331	345	13	104%
US\$レート (期中平均)	@ 150.7	@ 155.0	@ 4.3	円安
RMBレート (期中平均)	@ 21.2	@ 22.5	@ 1.3	円安

※ レートが1円円安に変動した場合の営業利益への影響額:US\$ +約0.5億円、RMB +約4億円
(為替感応度は2026年度5月公表見通し時点の前提に基づく試算です。)

今年度の通期の業績ですが、冒頭に申し上げましたように、今回、通期の業績の見通しは変更していません。

2026年度 セグメント別業績見通し(変更なし)

(億円)

		2025年度 実績	2026年度 見通し	増減額	前期比
マテリアル	売上高	4,905	4,955	49	101%
	売上総利益	757	776	18	102%
	<利益率>	15.4%	15.7%	0.2ppt	—
	営業利益	214	196	△18	91%
	<利益率>	4.4%	4.0%	△0.4ppt	—
エレクトロニクス	売上高	1,728	1,750	21	101%
	売上総利益	453	479	25	106%
	<利益率>	26.2%	27.4%	1.2ppt	—
	営業利益	153	144	△9	94%
	<利益率>	8.9%	8.2%	△0.6ppt	—
ライフサイエンス	売上高	3,092	3,294	202	107%
	売上総利益	664	724	60	109%
	<利益率>	21.5%	22.0%	0.5ppt	—
	営業利益	86	72	△14	84%
	<利益率>	2.8%	2.2%	△0.6ppt	—
その他・全社	売上高	0	0	0	53%
	売上総利益	1	0	△1	5%
	営業利益	△7	38	45	—
連結合計	売上高	9,727	10,000	272	103%
	売上総利益	1,876	1,980	103	105%
	<利益率>	19.3%	19.8%	0.5ppt	—
	営業利益	447	450	2	101%
	<利益率>	4.6%	4.5%	△0.1ppt	—

※ 当期より、セグメント業績管理の適正化に伴い、全社共通費用の配賦方法を変更しました。
 ※ 上表の前期実績及び当期見通しは新基準で記載しております。

セグメント別の業績見通しです。

こちらでも現時点では変更しておりません。大まかな見通しだけ述べさせていただきますと、エレクトロニクスセグメントにおきましては、生成AI半導体向けの変性エポキシ樹脂の販売、これは第2四半期以降も好調に推移すると予測しております。ライフサイエンスセグメントにおきましてはPrinovaの製造業が好調で、Solutions事業は引き続き伸長し、Nutrition事業につきましては今期の黒字化を見込んでおります。

一方で、マテリアルセグメントにつきましては、どこかで価格が下落することは見込んでおりますが、現時点ではその時期、幅については見通すことが非常に難しい状況であります。したがって、第2四半期の決算説明のときにはもう少し状況が分かってくると思いますので、改めて数字はその時点で更新させていただきます。

2026年度 主要製造子会社の業績見通し(変更なし)

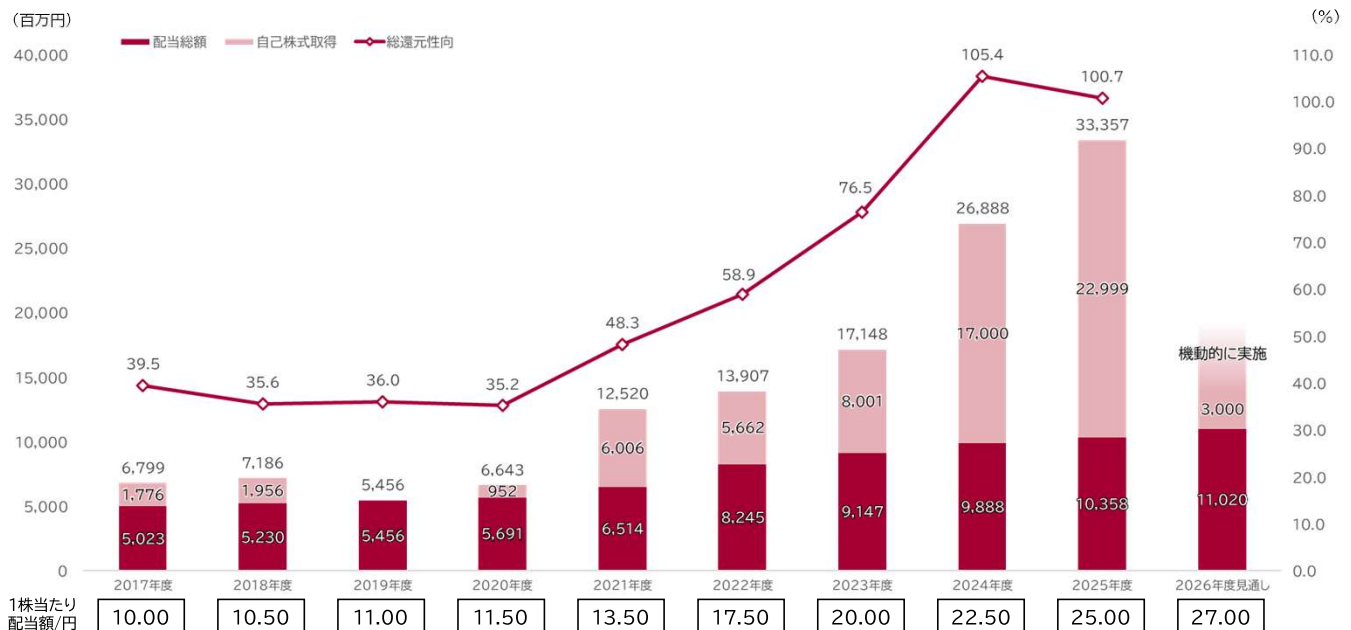
				(億円)		
				2025年度 実績	2026年度 見通し	増減額
						前期比
ナガセケムテックス グループ	売 上 高			330	356	25
	売 上 総 利 益			117	125	8
	<利益率>			35.5%	35.3%	△0.2ppt
	営 業 利 益			37	37	△0
	<利益率>			11.5%	10.6%	△0.9ppt
ナガセヴィータ	売 上 高			346	350	3
	売 上 総 利 益			139	136	△3
	<利益率>			40.3%	38.9%	△1.4ppt
	営 業 利 益			57	51	△6
	<利益率>			16.5%	14.6%	△2.0ppt
	の れ ん 等 償 却 費			18	18	-
Prinovaグループ	償却費負担後営業利益			38	32	△6
	売 上 高			2,142	2,420	277
	売 上 総 利 益			348	406	57
	<利益率>			16.3%	16.8%	0.5ppt
	営 業 利 益			69	80	10
	<利益率>			3.3%	3.3%	0.0ppt
	の れ ん 等 償 却 費			27	28	0
	償却費負担後営業利益			42	51	9

※ 当期より、ナガセケムテックスグループの数値について、Nagase ChemteX (Wuxi) Corp.および、Nagase ChemteX America LLCを含めております。これに伴い、比較情報として表示している前期実績についても、同様の基準に基づき組み替えて表示しております。

主要製造子会社の業績見通しですが、こちらも変更はしてありません。

株主還元状況

- ▶ 2026年度の1株当たり配当金は中間13円、期末14円の年間27円を予定(17期連続増配見通し)
- ▶ 2026年8月に30億円の自己株式取得を決議(期間:2026年8月5日~9月30日を予定)
- ▶ 株主還元方針:2028年度までの3ヶ年において継続増配を基本とし、自己株式の取得も機動的に実行(機動的の判断基準:EPS 3ヶ年30%成長)



※ 2026年度の期末配当金は、2027年6月開催予定の第112回定時株主総会に附議予定です。
 ※ 2026年4月1日付の株式分割(4分割)に伴い、1株当たり配当額は分割適及修正後の数値を記載しています。

株主還元の状況です。

今年度1株当たり配当金は中間配当13円、期末配当14円の年間27円を予定しており、これは17期連続の増配の見通しとなっております。

配当金のレベルに関しましては取締役会でも議論しておりますが、今回は通期の見通しを更新することが非常に難しい中ですので、現状どおりとさせていただきます。

また、先日の取締役会で30億円の自己株式取得を決議しております。当社株式の資本市場での評価はまだまだ割安ではないかと考えていること、それに加えて資本効率性改善のための機動的な自己株式取得とご理解ください。

以上、私から2026年度第1四半期の実績、および通期の見通しにつきまして説明させていただきました。

ご清聴いただき、ありがとうございます。

経営理念

誠実正道

社会の構成員たることを自覚し、
誠実に正道を歩む活動により、
社会が求める製品とサービスを提供し、
会社の発展を通じて、
社員の福祉の向上と社会への貢献に努める





当社ウェブサイト 投資家情報ページ

<https://www.nagase.co.jp/ir/>

お問合せはこちらから

<https://www.nagase.co.jp/contact/>

当プレゼンテーション資料には、2026年8月4日時点の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれています。世界経済・競合状況・為替変動等に関わるリスクや不確定要因により、実際の業績が記載の予測と異なる可能性があります。

NAGASEの各セグメントを取り巻く事業環境



業界	2025年度の動向		2026年度の動向		セグメント
電気・電子機器	需要及び樹脂市況は前期比微増。		需要及び樹脂市況は前期並み。OA業界再編によりビジネス機会が増加。		マテリアル
自動車	EVの需要減少に加え、自動車生産における地域ごとの二極化が進み全体として前期比微減。		自動車生産台数は前期並み。		
塗料	自動車用途は微減、建築用途は減少のため、全体として前期比微減。		自動車用途および建築用途は回復見込めず、全体として微減。		
半導体	AI牽引もメモリ高騰でスマホ・PCは前期並み。中国は国産化需要が拡大。全体では前期比好調。		AI牽引で市場拡大も、メモリ不足もありスマホ等の台数減で本格回復は遅れる。中国は好調維持も米中関係警戒。		エレクトロニクス
スマートフォン	ハイエンド堅調、低価格機普及でミドル・ロー微増も、中国の減速等で市場全体は前期並みで着地。		ハイエンドはAI化が進むもメモリ不足が逆風。ミドル・ローを中心に苦戦し、全体でも減少に転じる。		
フード	国内の食品素材は好調。欧米も食品素材・ニュートリションともに市場が成長し好調に推移。		国内の食品素材は前期並み。欧米は食品素材・ニュートリションともに市場が成長し好調に推移。		ライフサイエンス
香粧品	最終需要地である中国の消費低迷や新興ブランドの台頭による競合激化により業界構造に変化。		業界構造の変化は続くが、海外大手の高付加価値化戦略や日系大手の東南アジアシフトが進行し、需要は緩やかに回復。		
医薬	先発の外部調達化や制度変更によるジェネリック拡大を背景に、添加剤・原薬・中間体の需要が通期で堅調。		先発の外部調達トレンドやジェネリック市場の更なる拡大が継続し、添加剤・原薬等の需要は引き続き堅調。		

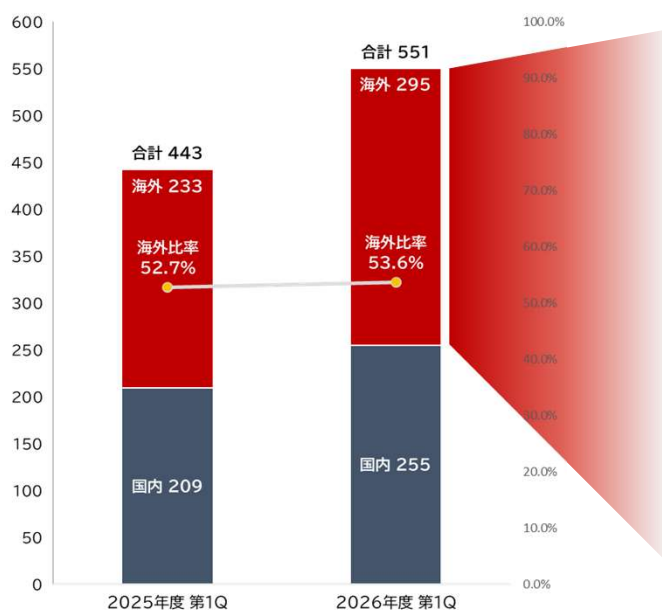
・必ずしも業界の動向とは一致しません

・当期より、機能素材・加工材料・モビリティがマテリアル、電子・エネルギーがエレクトロニクス、生活関連がライフサイエンスへセグメント名を変更しています

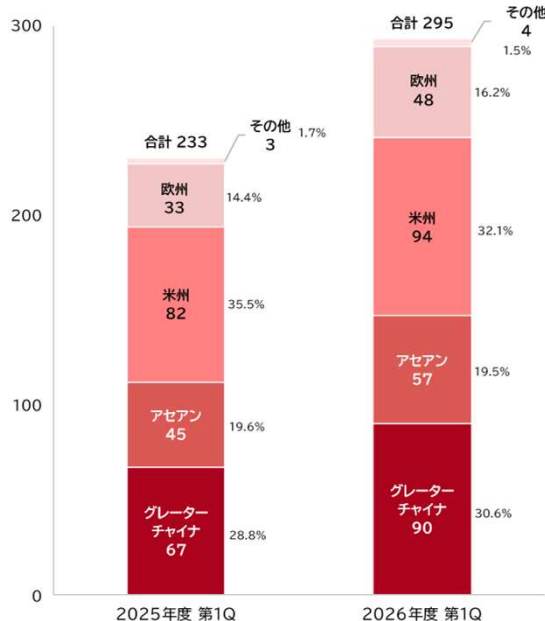
・「2026年度の動向」について、2026年5月7日公表の通期業績見通しの前提となる業界動向となり、通期業績見通しを変更していない為、変更はありません

所在地別 売上総利益

国内・海外売上総利益(億円)



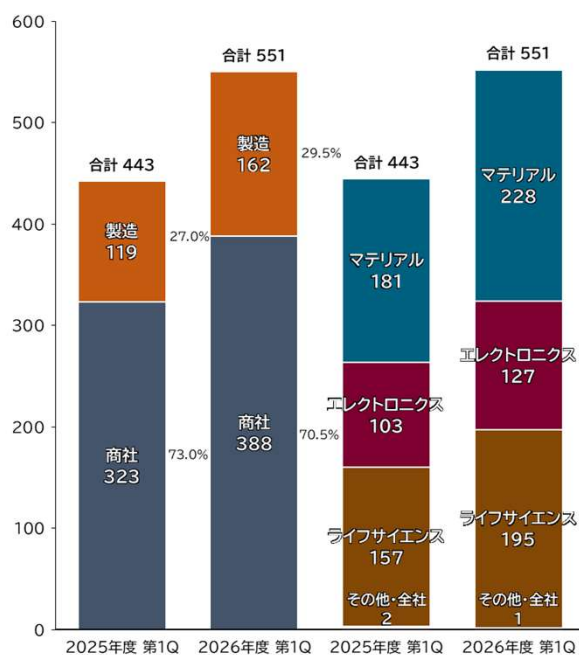
海外売上総利益の地域別内訳(億円)



※ 国内・海外売上総利益における国内の数値は地域間調整を含んでおります。

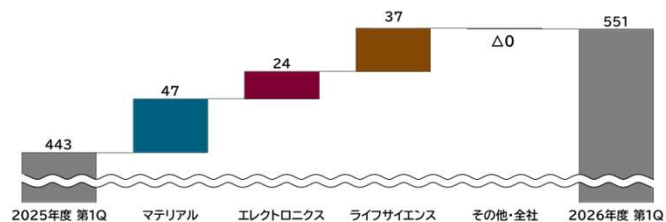
業態・セグメント別売上総利益 2期比較

業態・セグメント別 売上総利益(億円)

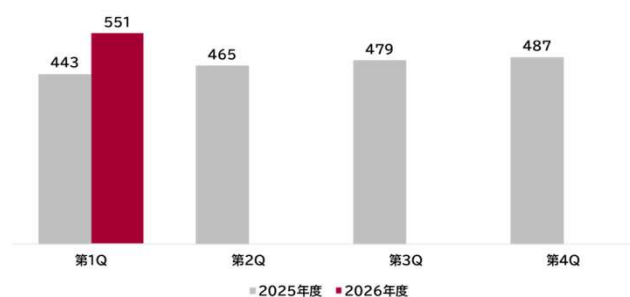


※ 当期よりPrinovaグループの売上総利益と営業利益を「製造業」「商社業」に区分開示しております。詳細は目次ページをご確認ください。

セグメント別 売上総利益 増減(億円)

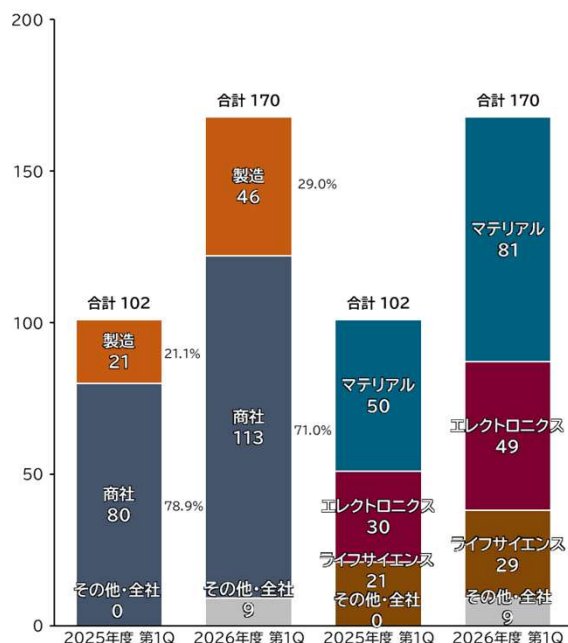


売上総利益 四半期推移(億円)



業態・セグメント別営業利益 2期比較

業態・セグメント別 営業利益(億円)

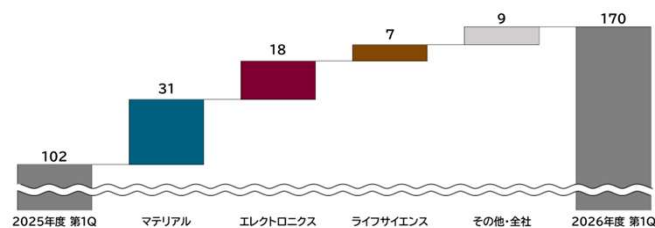


※ 業態別構成比の計算には、その他・全社を含めておりません。

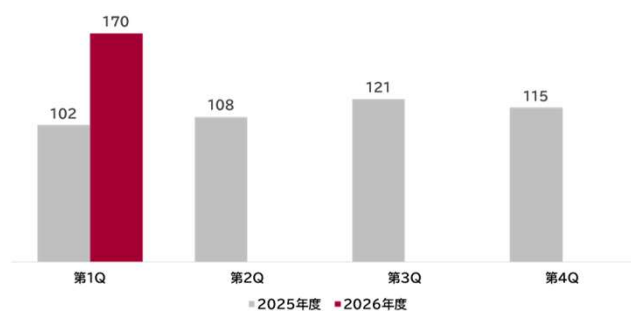
※ 当期より新配賦基準を採用しております。詳細は目次ページをご確認ください。

※ 当期よりPrinovaグループの売上総利益と営業利益を「製造業」「商社業」に区分開示しております。詳細は目次ページをご確認ください。

セグメント別 営業利益 増減(億円)



営業利益 四半期推移(億円)



売上高・売上総利益・営業利益 四半期推移

四半期実績							(億円)	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q累計	通期見通し	進捗率
売上高	当期	2,797				2,797	25年度実績	
	前期	2,373	2,424	2,443	2,487	2,373	10,000	28%
	増減額	424				424	9,727	
売上総利益	当期	551				551	272	
	前期	443	465	479	487	443	1,980	28%
	増減額	108				108	1,876	
<利益率>	当期	19.7%				19.7%	103	
	前期	18.7%	19.2%	19.6%	19.6%	18.7%	19.8%	
製造	当期	162				162	19.3%	
	前期	119	135	147	150	119		
商社	当期	388				388	552	
	前期	323	330	332	337	323	1,324	
営業利益	当期	170				170	450	38%
	前期	102	108	121	115	102	447	
	増減額	67				67	2	
<利益率>	当期	6.1%				6.1%	4.5%	
	前期	4.3%	4.5%	5.0%	4.6%	4.3%	4.6%	
製造	当期	46				46		
	前期	21	21	35	34	21	113	
商社	当期	123				123		
	前期	80	86	85	80	80	333	

※ 当期よりPrinovaグループの売上総利益と営業利益を「製造業」「商社業」に区分開示しております。詳細は目次ページをご確認ください。

セグメント概況 マテリアル

(億円)

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q累計	通期見通し	進捗率
							25年度実績	
売上高	当期	1,403				1,403	4,955	28%
	前期	1,189	1,240	1,239	1,236	1,189	4,905	
	増減額	214				214	49	
売上総利益	当期	228				228	776	29%
	前期	181	190	191	194	181	757	
	増減額	47				47	18	
<利益率>	当期	16.3%				16.3%	15.7%	
	前期	15.2%	15.3%	15.4%	15.8%	15.2%	15.4%	
製造	当期	25				25		
	前期	20	21	22	21	20	85	
商社	当期	202				202		
	前期	161	168	168	173	161	671	
営業利益	当期	81				81	196	42%
	前期	50	51	53	59	50	214	
	増減額	31				31	△18	
<利益率>	当期	5.8%				5.8%	4.0%	
	前期	4.2%	4.2%	4.3%	4.8%	4.2%	4.4%	
製造	当期	9				9		
	前期	5	5	6	6	5	24	
商社	当期	72				72		
	前期	44	45	46	52	44	190	

※ 当期より新配賦基準を採用しております。詳細は目次ページをご確認ください。

セグメント概況 エレクトロニクス

(億円)

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q累計	通期見通し	進捗率
							25年度実績	
売上高	当期	491				491	1,750	28%
	前期	415	431	442	439	415	1,728	
	増減額	76				76	21	
売上総利益	当期	127				127	479	27%
	前期	103	115	120	114	103	453	
	増減額	24				24	25	
<利益率>	当期	25.9%				25.9%	27.4%	
	前期	24.8%	26.7%	27.3%	26.0%	24.8%	26.2%	
製造	当期	49				49		
	前期	35	47	51	49	35	184	
商社	当期	77				77		
	前期	67	67	69	65	67	268	
営業利益	当期	49				49	144	34%
	前期	30	39	46	36	30	153	
	増減額	18				18	△9	
<利益率>	当期	10.0%				10.0%	8.2%	
	前期	7.4%	9.2%	10.6%	8.3%	7.4%	8.9%	
製造	当期	17				17		
	前期	9	15	19	13	9	57	
商社	当期	32				32		
	前期	21	24	27	23	21	96	

※ 当期より新配賦基準を採用しております。詳細は目次ページをご確認ください。

セグメント概況 ライフサイエンス

四半期実績							(億円)	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q累計	通期見通し	進捗率
売上高	当期	902				902	25年度実績	
	前期	768	751	760	810	768	3,294	27%
	増減額	133				133	3,092	
売上総利益	当期	195				195	724	27%
	前期	157	160	167	179	157	664	
	増減額	37				37	60	
<利益率>	当期	21.6%				21.6%	22.0%	
	前期	20.5%	21.3%	22.0%	22.1%	20.5%	21.5%	
製造	当期	87				87		
	前期	63	66	72	79	63	282	
商社	当期	107				107		
	前期	93	93	94	99	93	381	
営業利益	当期	29				29	72	40%
	前期	21	17	21	25	21	86	
	増減額	7				7	△14	
<利益率>	当期	3.2%				3.2%	2.2%	
	前期	2.8%	2.4%	2.8%	3.2%	2.8%	2.8%	
製造	当期	20				20		
	前期	6	1	9	15	6	32	
商社	当期	8				8		
	前期	14	16	11	10	14	53	

※ 当期より新配賦基準を採用しております。詳細は目次ページをご確認ください。

※ 当期よりPrinovaグループの売上総利益と営業利益を「製造業」「商社業」に区分開示しております。詳細は目次ページをご確認ください。

主要製造子会社概況 – ナガセケムテックスグループ –

▶ 売上総利益は前期比10億円の増益。営業利益は前期比8億円の増益。

- ・ 変性エポキシ樹脂販売は営業利益が全体として増益。モバイル機器向けシート材料の販売が減少したが、AI半導体向けLMCの販売増加による。
a-SMCは先端半導体向け高機能ICパッケージ基板用封止材として採用され、少量量産を開始。
- ・ フトリソ材料販売は営業利益が増益。売上高は前期並みだが、効率化推進によるコスト削減が貢献。

							(億円)	
四半期実績							通期見通し	進捗率
							25年度実績	
売上高	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q累計			
	当期	102			102		356	29%
	前期	79	81	85	83	79	330	
売上総利益	増減額	23			23		25	
	当期	38			38		125	31%
	前期	28	29	29	28		117	
<利益率>	増減額	10			10		8	
	当期	37.8%			37.8%		35.3%	
	前期	35.9%	36.4%	34.2%	35.5%	35.9%	35.5%	
営業利益	1Q	2Q	3Q	4Q	1Q累計			
	当期	17			17		37	47%
	前期	9	9	9	8	9	37	
<利益率>	増減額	8			8		△0	
	当期	17.1%			17.1%		10.6%	
	前期	12.0%	12.1%	11.5%	10.2%	12.0%	11.5%	



LMC: Liquid Molding Compound



a-SMC: Advanced Sheet Molding Compound

※ ナガセケムテックスの営業機能を長瀬産業および販売子会社が担っており、商社業においてもナガセケムテックスのビジネスによる利益が計上されています。
 ※ 当期より、ナガセケムテックスグループの数値について、Nagase ChemteX (Wuxi) Corp.および、Nagase ChemteX America LLCを含めております。これに伴い、比較情報として表示している前期実績についても、同様の基準に基づき組み替えて表示しております。

主要製造子会社概況 – ナガセヴィーター

▶ 売上総利益は前期比2億円の増益。営業利益は前期比1億円の増益。

- ・ 食品素材販売は営業利益が減益。数量が前期並みである一方、原材料の価格上昇による。
- ・ 香粧品素材販売は営業利益が増益。国内外ともに販売数量が増加したことによる。

四半期実績							(億円)	
		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q累計	通期見通し	進捗率
							25年度実績	
売上高	当期	93				93	350	27%
	前期	86	85	90	84	86	346	
	増減額	6				6	3	
売上総利益	当期	37				37	136	28%
	前期	35	34	36	32	35	139	
	増減額	2				2	△3	
<利益率>	当期	40.5%				40.5%	38.9%	
	前期	41.2%	41.0%	40.6%	38.1%	41.2%	40.3%	
営業利益	当期	16				16	51	33%
	前期	15	13	15	12	15	57	
	増減額	1				1	△6	
<利益率>	当期	18.1%				18.1%	14.6%	
	前期	17.8%	16.3%	17.2%	14.8%	17.8%	16.5%	
のれん等償却費	当期	4				4	18	
	前期	4	4	4	4	4	18	
	増減額	0				0	0	
償却費負担後 営業利益	当期	12				12	32	38%
	前期	10	9	10	7	10	38	
	増減額	1				1	△6	

※ ナガセヴィータの一部の営業機能を長瀬産業および販売子会社が担っており、商社業においてもナガセヴィータの一部のビジネスによる利益が計上されています。

主要製造子会社概況 – Prinovaグループ

- ▶ 売上総利益は前期比23億円の増益。営業利益は前期比5億円の増益。
- ・ 製造業は営業利益が増益。Solutions事業の販売増加に加え、Nutrition事業の販売増加による赤字幅縮小による。
 - ・ 商社業は営業利益が減益。食品素材販売の売上高、売上総利益は増加したが、物流コスト等の販管費増加による。

四半期実績		1Q	2Q	3Q	4Q	1Q累計	(億円)	
							通期見通し	進捗率
							25年度実績	
売上高	当期	641				641	2,420	26%
	前期	539	530	514	557	539	2,142	
	増減額	101				101	277	
売上総利益	当期	105				105	406	26%
	前期	82	86	84	95	82	348	
	増減額	23				23	57	
<利益率>	当期	16.4%				16.4%	16.8%	
	前期	15.2%	16.2%	16.5%	17.2%	15.2%	16.3%	
製造	当期	36				36		
	前期	23	24	26	35	23	109	
商社	当期	68				68		
	前期	58	61	58	60	58	239	
営業利益	当期	22				22	80	28%
	前期	16	19	15	18	16	69	
	増減額	5				5	10	
<利益率>	当期	3.6%				3.6%	3.3%	
	前期	3.1%	3.6%	3.0%	3.3%	3.1%	3.3%	
製造	当期	9				9		
	前期	0	△1	3	10	0	13	
商社	当期	13				13		
	前期	15	20	12	7	15	56	
のれん等償却費	当期	6				6	26	
	前期	6	6	6	7	6	27	
	増減額	△0				△0	△0	
償却費負担後	当期	16				16	53	30%
営業利益	前期	9	12	8	11	9	42	
	増減額	6				6	11	
製造	当期	5				5		
	前期	△3	△5	△0	6	△3	△2	
商社	当期	10				10		
	前期	13	17	9	4	13	45	

※ 当期よりPrinovaグループの売上総利益と営業利益を「製造業」「商社業」に区分開示しております。詳細は目次ページをご確認ください。